

敷居（しきい）をふまない

最近では、出入り口がドアの家が多くなってきましたが、昔はほとんどの家が引き戸で、敷居がありました。

「敷居は親（主人）の頭だからふんではいけない」、「敷居には神様がいらっしゃるからふんではいけない」などといわれ、敷居はふまないでまたぐように教えられてきました。



出入り口の敷居（益子町 大山栄氏宅）



敷居の他にも、「畳のへり」をふんではいけないというマナーがあります。

〈“敷居をふまない”の説明〉

敷居をふんではいけない理由にはいくつかあるようですが、そのひとつとして、敷居が汚れたり、すり減ったりすることで、戸の開け閉めがしにくくなるを防ぐためだったということがあげられます。そこで、ふむことができない「親の頭」や「神様」を敷居にたとえて、「敷居をふんではいけない」と教えたのでしょう。

また、家の出入り口の敷居には、外の世界とその家の世界の境界を表すという考え方があり、大切な場所とされていました。

敷居をふまないで入るようにするのはもちろんですが、他の家を訪問したときなどは、家に入る前にくつの汚れを落としたり、身だしなみを整えたりするのも大切なマナーですね。

敷居はふまないで、
またぐまる！

